

第62回 神宮式年遷宮齋行



皇大神宮(内宮)の新しい正殿
写真提供/神宮司廳



平成ノ大造営

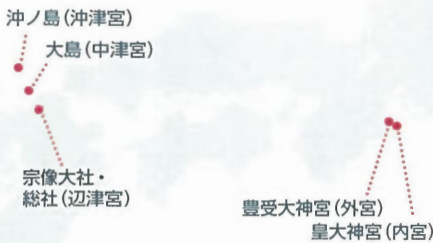
時満ちて
道ひらく

宗像大社の御祭神・宗像大神の御親神である、皇祖・天照大神をおまつりする伊勢の神宮で、二十一年に一度、神殿をはじめ神に供える御装束、神宝を新しく造り替える「神宮式年遷宮」が齋行されました。

千三百年脈々と続くこの祭事は、皇大神宮(内宮)が十月二日、豊受大神宮(外宮)が五日に、式年遷宮の中でも最重要とされる「遷御の儀」(新しい正殿へご神体にお遷り頂く行事)が齋行され、約八年間に亘った一連の祭事がクライマックスを迎えました。

五日の外宮「遷御」には高向宮司が参列、杉山禰宜は事務局長として奉仕、遷宮後の神嘗祭には葦津禰宜が日向奉仕致しました。

伊勢の神宮では今回の内宮と外宮のみならず、平成二十六年まで別宮など今後六十五棟の社殿などが順次建て替えられていきます。



余滴

戦国時代、宗像大宮司氏貞は赤間の城山に鷹ヶ嶽城を構え本城とした。この城跡から博多方面を展望すると、三つの峰からなる立花山を望むことが出来る。立花山には大友宗麟の家臣である戸次道雪が立花城主として構え対峙していた▼当時、九州は大友氏・龍造寺氏・島津氏の三大勢力があり、関門海峡を隔てた周防の国には大内氏の勢力があった。其の狭間で、宗像氏は和睦や交戦を繰り返し、特に隣敵、大友氏との交戦は絶えなかった▼この交戦の中、氏貞は戦国武将として神郷宗像の領土を死守し、一方で第七十九代宗像大宮司として宗像大神への祭祀を司った。そして弘治三年(一五五七)に焼失した辺津宮御本殿を、二十一年後の天正六年(一五七八)に再建し、悲願を果たす▼その造営の一部には、「永禄七年五月津屋崎沖に唐船が漂着する。積載の赤白の糸・木綿等は慣例を申し立て、造営費に充つ」。又「天正三年蛭船、江口の浜に漂着。絹布、薬種を満載、其の財を神社修復に充つ」と、宗像海人族としての政治的力量も発揮した▼氏貞は、戦国乱世にあつて神社の再興に尽くしたが、拝殿、楼門の再建までは及ばず、天正十四年三月四日鷹ヶ嶽城において四十二歳で病没する▼本年九月より辺津宮本殿・拝殿の保存修理事業が始まった。平成二十六年十二月には事業を終え、宗像大宮司氏貞が再建した往時の姿に厳かに甦る。(渡)

神具・装束・授与品

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

杉山禰宜 豊受大神宮「遷御の儀」へ出向

十月四、六日迄の三日に亘り、第六十二回神宮式年遷宮に初めて事務局員として豊受大神宮(外宮)に奉仕をさせて頂いた。

四日、内宮・宇治橋前の修養団伊勢青少年研修センターに出向、今後の日程等の指導を受け、遷宮祭奉仕のために参集した約八十名の受付等を行い、午後からは臨時奉仕員



淨園の中、御列が新宮へと進む (内宮)



中ノ池のほとりで行われた川原天祓 (外宮)

と外宮に同行し習礼を行った。同日四時から川原天祓(御装束・神宝・祭主以下の祭員を祓い清める儀式)が、外宮正殿前にある三つ石前に朱塗の唐櫃が置かれ、祭主・大宮司以下祭員が列立し齋行された。翌五日「遷御の儀」当日、遷御に先立ち午後一時には一般参拝は停止され、来賓者のみが参入、皇族代表としては秋篠宮殿下が参列された。同六時、第三鼓を合図に勅使の御列・祭主・大宮司以下百数十人に及ぶ奉仕員の列が、淨園の中、松明の明かりに照らされて参道を進み、遷御の儀が始まった。同八時、瑞垣御門

にて祭員が鶏鳴三声を唱え(カケロー、カケロー、カケロー)、勅使の出御の合図と共に御神体は絹の覆いに囲まれて御正殿を出御。御道敷の白布の上を新宮へと、約四千人の特別奉拝者に見守られ小雨が降る

葦津禰宜 皇大神宮神嘗祭へ出向

式年遷宮後、初の神嘗祭が伊勢の神宮にて齋行された。三節祭と云われ六月、十二月の月次祭と共に最重儀とされる大祭であり、宮中においては天皇陛下が神嘗祭に先立ち神宮に遙拝されると共に、勅使を使わされる新穀感謝の祭りである。

この奉仕に全国の一般神職が奉仕出来る機会が毎年与えられており、本年は高知・香川・愛媛・長崎・福岡各県より一名が出向し、福岡県からは葦津禰宜が皇大神宮(内宮)で十月十六、十七日に奉仕させて頂いた。

内宮の祭典に先立ち、昭和天皇第四皇女の池田厚子祭主

中、ゆつくりと御神体はお渡りになり、新宮に御神体が納められた。

六日には天皇陛下からの「幣帛」を奉る「奉幣の儀」が行われ外宮での神事が終了した。二十年に一度の遷宮祭に奉

を始め、大宮司ほかの神職により十五、十六日に豊受大神宮(外宮)で祭典が行われて後、内宮では十六日午後十時由貴夕大御饌、十七日午前二時由貴朝大御饌が行われ、午後十二時より奉幣、同六時より御神楽が行われるのが一連の祭典であるが、式年遷宮の今年は別に大御饌祭が十七日の午前六時、奉幣祭が午前八時に齋行された。

神宮は一般の神社が行う祭式作法とは異なる独特の祭式作法があり、出向神職の所役はないが、「八度拜」といわれる奉仕者全員が行う拝礼作法は、神宮神職より念入りに指導を受け奉仕に備えた。

新宮での奉仕は清々しいものがあり遷宮を終えた旧宮を横に見ながら、祭典が進むにつ

仕し、千三百年続く秘儀の中に、日本の文化と伝統に基づく平和の祈りを改めて実感することが出来た。内宮・外宮の遷御が終えられた今、神々のみずみずしい力の永続を心から願いたい。

れて新宮に神様が移られた実感が湧いた。特に由貴夕大御饌、由貴朝大御饌は浄闇の中で松明と提灯の明かりだけで行われ、いにしえより変わらない祭式である事に改めて感銘を受けた。常日頃、我々も悠久の祭りを行っているつもりであるが、時代の変遷により気付かないうちにかなり変化していることを改めて実感させられた奉仕であった。



忌火屋敷前での修祓

写真提供/神宮司廳

沖津宮・中津宮秋季大祭齋行

去る十月十八・十九日の両日に亘り、筑前大島に鎮座する中津宮、また沖津宮遙拝所において恒例の秋季大祭が盛大に齋行された。

この大祭は島民の多くが漁業従事者であるため、今日でも月夜に当たる旧暦の九月十五日に齋行されており、当日を漁止めとし島民挙げて執



中津宮 秋季大祭



氏子奉幣使 中村一利氏

も、早朝より小春日和の好天となり、沖津宮遙拝所にて沖津宮秋季大祭・大島の

翌十九日は降雨の予報も、早朝より小春日和の好天となり、沖津宮遙拝所にて沖津宮秋季大祭・大島の

り行っている。又、神賑行事として島内の各地区・団体より演芸の奉納もあり、毎年大いに賑わいをみせている。大祭数日前より、沖・中両宮奉賛会、同翼賛会、同敬神婦人部の皆様のご奉仕により社殿の装飾、境内清掃、そして中津宮本殿東側には秋季奉納演芸大会の舞台が手作りにて設営され、祭典齋行を待つばかりとなった。午後五時、沖津宮遙拝所、中津宮に於いて宵宮祭が齋行され、翌日の大祭の無事齋行が祈念された。

最高峰御嶽山々頂で御嶽神社祭・宮崎地区で厳島神社祭が其々執り行われた。

午前十一時、地元島民を始め島外より遠近の篤信者多数が参列のもと、中津宮秋季大祭が齋行された。祭典は高向宮司が国家・皇室の弥栄を祈念する祝詞を奏上、次いで島民氏子を代表し、奉幣使の中村一利氏が祭詞を奏上。巫女が神楽「浦安舞」を奉奏し、厳粛

裡に終了した。

直会終了後の午後一時三十分、秋空の下恒例の「奉納演芸大会」が開催され、各演芸奉納者からは趣向を凝らし練習を重ねて来られた、舞踊・ダンス・カラオケ・寸劇等が披露され、その賑やかな雰囲気に入り参加も続き、計十六番の演芸が奉納され、清き秋の境内は神人和楽の笑いと歓喜の声に包まれた。

長野県松本市 特産の信州りんごを奉納



観菊者、七五三祈願者等で賑わう十一月四日、長野県松本市特産の信州りんごを奉納する式典が行われ、終了後、長野県観光マスコットキャラクター「アルクマ」と巫女等が四〇〇個のりんごを参拝者等に手渡した。

二千円を超えるアルプスに囲まれた「山のまち」松本市と、「海のみち」宗像市は、福岡と松本間の直行便が運航しており、さらに交流を深めようと、今回、松本農業開発センターやJA全農長野福岡販売所などが賛同し松本市特産のりんごが奉納される運びとなった。

午前十時、仮本殿で行われた式典では、まず、りんごや参列者が祓い清められた後、奉納者から巫女に手渡され、さらに神職が三方に盛られたりんごを神前にお供えた。引き続き、巫女や関係者等が松本市の観光パンフレットとりんごのセットを参拝者等に配ると、境内中の方が殺到し、盛況を博していた。



大いに賑わった奉納演芸大会

第43回 西日本菊花大会 閉幕

内閣総理大臣賞に

懸崖の部 和田太義氏 (山口県宇部市)

西日本最大の規模を誇る菊花の祭典、西日本菊花大会(主催Ⅱ宗像大社菊花会・宗像観光協会、後援Ⅱ福岡県他)が、先月二十二日を以て盛大裡に終了した。

この大会は当大社「昭和の大造営」を奉祝し、昭和四十六年に第一回大会が開催され、

今年で四十三回目となる。境内には九州各県、山口の菊愛好家約一〇〇名から、丹精込めて育てられた菊花が出品され、質・量ともに「西日本」の名に相応しい規模を誇る菊の祭典である。

開催にあたっては、宗像大社菊花会を中心に宗像市商工会青年部、(公社)宗像青年会議所、運送会社外多数の皆様方に御奉仕頂き、菊花の搬入・展示が行われた。

十月三十日、福岡県農業試験場園芸研究所花き部々長松野孝敏氏を審査長として、七名で審査が行われ、大輪・盆栽・懸崖・特作の四部門それぞれ厳しい出品基準・審査基準に則り厳正に審査された。



本年は夏の記録的猛暑、また度重なる台風の影響などにより、菊作りにとって決して良い条件では無いものの、会員皆様の努力により十月三十日には色彩豊かな見事な菊花が境内に出揃い、多くの参拝者を楽しました。

十一月十八日には、清明殿にて表彰式が開催され、賞状・トロフィーが各受賞者等に授与された。また、審査長の松野孝敏氏より審査講評を賜ると、出席者等は次年度への励みにと熱心に聞き入っていた。

期間中の境内では、例年の「菊みくじ」や勅使館を特別開放した「茶房」、観光協会による「いっぷく茶屋」を実施、さらには観

光ポランティアの皆様による境内案内なども行われた。また、恒例のキャラクター「七五三」の菊文字で出来た特別奉納花壇に加え、本年は漢字にて「宗像大社」と菊文字にて作られた菊花なども加わり、七五三詣での参拝者を中心に記念写真撮影場所として賑わいをみせた。

また今年も、宗像市立玄海小中学校の生徒による菊を境内にツリー状に並べ夜はライトアップし今大会に彩りを添えた。大会期間中には大きな天

候の乱れも無く多くの観覧者にて連日境内は賑わいを見せていた。

本大会開催にあたり、ハウスの設営・菊花搬入等の奉仕活動に御協力頂きました多くの皆様へ、誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。



各賞、受賞者は下記の通り(敬称略)

| | |
|-------------|---------|
| 内閣総理大臣賞 | 和田 太義 |
| 農林水産大臣賞 | 保田 直宏 |
| 文部科学大臣賞 | 福嶋 廣之 |
| 総務大臣賞 | 重光 由紀子 |
| 法務大臣賞 | 時田 義光 |
| 外務大臣賞 | 舛井 弘己 |
| 財務大臣賞 | 舛越 順一 |
| 厚生労働大臣賞 | 石原 睦生 |
| 経済産業大臣賞 | 社家間 サツキ |
| 国土交通大臣賞 | 白水 晴治 |
| 環境大臣賞 | 小野田 忠温 |
| 防衛大臣賞 | 舛越 順一 |
| 内閣官房長官賞 | 御田 良知 |
| 衆議院議員 宮内秀樹賞 | 高橋 伸紀 |
| 宗像大社宮司賞 | 石原 睦生 |

※以下、受賞者につきましては紙面の都合上割愛させていただきます。



内閣総理・農林水産・文部科学大臣賞受賞作品



秋の神賑行事

神威は敬心によつて増す

第38回 清香吟社奉納吟詠大会

清香吟社宝山会による秋季奉納吟詠大会が十一月三日清明殿にて開催された。

吟が奉納された。

献吟後、清明殿へと場所を移し、式典が開催され、永年斯道の興隆に寄与された、増田俊山氏・伊藤征雄氏・矢野有游月氏に感謝状と記念品が贈呈された。その後、会員各々日頃鍛えた吟詠を披露した。

宗家・宗嗣益中翔山氏をはじめ、県内外より会員約五十名が参集した。大会に先立ち、午前十時三十分より仮本殿にて正式参拝、会員一同による「吟道」の合

第5回 博陽吟道会秋季奉納吟詠大会

十一月六日、博陽吟道会奉納による吟詠大会(協賛・吟道清吟会)が開催された。

開会に先立ち午前十時三十分より、本殿にて正式参拝、博陽吟道会々長藤井陽月氏による献吟、博陽吟道会・吟道清吟会両会員による合吟が奉納された。

し、開会式が行われ、その席上にて、博陽吟道会の田中藍月氏・染矢弥月氏、吟道清吟会の古賀盛山氏の表彰が行われ、賞状と記念品が送られた。

その後、各会員日々の研鑽による自慢の喉で吟詠を披露した。大会終了後は、各会員今後の上達を誓い大社を後にした。

平成25年度 宗像大社秋季奉納囲碁大会

十一月十日(日)宗像本因坊戦(五・六段者)、宗像大社奉納囲碁大会(初段〜五段)が宗像・福津両市内から約一五〇名が参集し、斎館・清明殿で開催された。

囲碁大会は一三二名が参加し

初段〜五段を六人一組に別け、各組ごとに優勝者を決定した。実力ナンバーワンを決める本因坊戦は、高段者十三名によるトーナメント形式で行い、熱戦の末、福永雅通氏(六段)が優勝を果たした。



時満ちて道ひらく 造営日記 ③

十一月五日、辺津宮本殿及び拝殿が完全に素屋根で覆われた。翌日からは、早速本殿の金具等の取り外しが行われ、数日後には柿葺きの屋根が剥がされた。工事進捗状況は左記の通り



本殿は昭和四十六年に解体修理を行って以来四十二年が経過し、柿葺きの屋根は平葺・軒付とも全体的に磨耗しており、葺込銅板がかなり露出されていました。



素屋根に覆われた本殿及び拝殿



修復の為にはずされた本殿の鬼板



本殿同様、柿葺きの拝殿屋根は平成七年に葺き替えられていますが、葺込銅板が無かった為に板の暴れや腐朽が著しく、鳥害による破損も一部見受けられます。



平成十七年に発生した福岡県西方沖地震により、床板に隙間が生じた為全部剥がして修復します。

古式祭の御案内

八百年の伝統をもつ、宗像地方の特殊神事「古式祭」が左記日程で執り行われます。振るって御参列下さい。

- ◆ 日時 12月15日(日)
- ◆ 祭典 午前6時
- ◆ 祭場 宗像大社本殿
- ◆ 御座 午前6時30分～一番座
(二番座 50名ずつ、五番座まで)
- ◆ 会場 宗像大社 清明殿
- ◆ 御座料 1人：1,000円

※御座券は当日午前6時より販売致します。
(例年午前5時30分位から多くの方が並び始めます。)



除夜祭・大祓神事の御案内

年の瀬を迎え、皆様には御多忙の御事と拝察申し上げます。今年一年を締め括る「大祓神事」「除夜祭」が近付いて参りました。

この大祓神事は「年越の大祓」と称し、夏(7月31日)に行われた「夏越の大祓」以後半年間の「罪・穢れ」を祓い清め、清々しい心身で新年を迎えていただくための神事でございます。

大祓神事に引き続き行われる除夜祭は、この一年を締めくくる祭典です。この祭典が終ると、しばしの静寂を経て元旦を迎えます。

- ◆ 日時 12月31日(火) 午後3時
- ◆ 場所 神門前

尚、遠方または参列出来ない方は、大祓神事当日までに「人形」(男Ⅱ白女Ⅱ赤)に息を吹きかけ、御家族の名前・住所・年齢を、「車型」にはナンバーを御記入の上、当大社まで御返送ください。



平成26年 厄年一覽表

| 昭和48年 | 昭和47年 | 昭和45年 | 昭和44年 | 昭和36年 | 昭和35年 | 昭和30年 | 昭和29年 | 昭和28年 | 昭和27年 | 昭和26年 | 昭和18年 | 昭和17年 | 昭和9年 | 昭和8年 | 大正14年 | 大正13年 | 生まれ年 | 厄 | 満年齢 | 生まれ年 | 厄 | 満年齢 | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| 大厄(男) | 後厄(男) | 暗剣殺 | 八方塞 | 暗剣殺 | 八方塞 | 前厄(男) | 大厄(男) | 後厄(男) | 暗剣殺 | 八方塞 | 暗剣殺 | 八方塞 | 暗剣殺 | 八方塞 | 暗剣殺 | 暗剣殺 | 八方塞 | 昭和49年 | 前厄(男) | 8 | 昭和49年 | 前厄(男) | 40 | | |
| 41 | 42 | 44 | 45 | 53 | 54 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 71 | 72 | 80 | 81 | 89 | 90 | 平成18年 | 暗剣殺 | 9 | 平成17年 | 八方塞 | 8 | 平成18年 | 暗剣殺 | 9 |
| 平成18年 | 平成17年 | 平成9年 | 平成8年 | 平成7年 | 平成3年 | 平成2年 | 平成元年 | 昭和63年 | 昭和62年 | 昭和58年 | 昭和57年 | 昭和56年 | 昭和54年 | 昭和53年 | 昭和52年 | 昭和49年 | 昭和49年 | 前厄(男) | 8 | 昭和49年 | 前厄(男) | 40 | 昭和49年 | 前厄(男) | 40 |
| 暗剣殺 | 八方塞 | 前厄(女) | 大厄(女) | 後厄(女) | 前厄(男) | 大厄(男) | 後厄(男) | 暗剣殺 | 八方塞 | 前厄(女) | 大厄(女) | 後厄(女) | 前厄(女) | 大厄(女) | 後厄(女) | 前厄(男) | 昭和49年 | 前厄(男) | 8 | 昭和49年 | 前厄(男) | 40 | 昭和49年 | 前厄(男) | 40 |

厄年

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった「厄」にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。

特に男性の四十二歳、女性の三十三歳は「大厄」とされ、その前後の年も「前厄・後厄」といって、最も慎み忌むべき年とされています。

我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習であり、厄年を迎えると我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。医学的にみても、男性の四十代は生活習慣病、女性の三十代は乳がん・子宮がんの発生率が高くなる年代で厄年とも符合します。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちでお過ごしください。

八方塞

陰陽道でどの方向に向かっても事を成しても、不吉の結果を生ずる年齢とされ、転居、結婚、新しく事をはじめの方は要注意と言われています。

暗剣殺

「九星術」でその年の五黄土星と相対する方位で、最も慎まねばならないとされる大凶の年廻りと言われています。

交通規制のお知らせ

交通安全 宗像大社 初詣

| 期間 |
|--|
| ●平成25年12月31日(火) 午後10時から 平成26年1月1日(水) 午後8時まで |
| ●平成26年1月2日(木)~1月3日(金) 午前9時から午後7時まで |
| ※交通状況により、規制時間を変更することがあります。 |

| 凡例 | |
|----|--------|
| | 宗像大社順路 |
| | 一方通行 |
| | 歩行者用道路 |
| | 車両進入禁止 |
| | 交通信号機 |
| | 駐車場 |



※主要地点から宗像大社までの距離
 ★東郷橋交差点から 4.1km ★神湊交差点から 2.0km
 ★日の里北口交差点から 4.1km ★瀬戸交差点から 3.3km
 ■公共交通機関をご利用ください

第六二八回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



評 島宮に「天の川」あり水もとは真名井と言へり柵繁れる
天の川が地上にある面白さ。四・結句を入れかえ真名井の景色が見える様に。

評 朝三時傘さし歩く人のあり緊急の用件であらねば良いが
早朝を歩く人に気付き、思いやる作者。四句は(緊急の用で)でよい。

評 平坦な人生のみにあらざりき亡夫の軍歴われの介護認定
人生の困難が軍歴と介護に表われる。長い軍歴などもう一つ踏み込んだ表現を。

評 水書に流れて消えし鷺草を再び求めて花咲くを待つ
大切なものを再び得た作者。二句以下をへ失くせし鷺草を求めて花のひらくを再び待てり。

評 黄金抱き風にのたうつ赤大蛇棚田の空へかける夕焼
夕焼けを大蛇に喩えた比喻が見事。四句・結句をへくの空の夕焼け雲はに。

評 爽やかな朝のホームに立ちをれば金木犀の香り漂ふ
気持ちのよい、季節感のある歌。爽やかさは朝で出ているので初句に工夫を。

評 夜なべして母に着せたき着物縫う頃もありけりとおき秋の日
通常の発想とは逆に、母のために夜なべをする作者に意外性がある。三句はく縫いし。

評 髷面でジャンパー臭ふ常連さん図書室でジャパン・タイムズを読む
じゃ、じよの音が韻律を作る。意外な人が知的だった・・・という構図が見え過ぎるのが難か。

評 赤櫻・三味線共に下りくる松茸狩りの遠き一コマ
松茸狩りは年中行事だったのか、光景が見えてくるような描写が効いている。

評 コーヒーのカップのとつてどれもみなことなることに今頃気づく
発見が新鮮。カップの取っ手の形がみな違うという発見だけを詠んでみても

評 冬の棘ある落葉下草を抱きて風に吹かれず積もる
細やかな観察による三・四句の表現が良い。四句は(飛ばずに)では。

評 胸白きカチガラスが鳴く里山にのぼる朝日を全身に浴び
宗像でも時々カチガラスが見られる。朝日の中の胸が白いカチガラスが美しい。

評 立冬の風暖かく学び舎に集いて語る老教授たち
老いた教授達が研究室に集まり何を語り合うのだろう、想像が広がる。二句も効果的。

◆ 選者詠
文箱から友の文出づカトマンツの風の香を知るうすき便箋
うつくしき凶器踏みたりさざんかの花卉にすべり道に膝つく

俳句作品集

第六〇一回

- 宗像市 田久 巻 桔梗
- 宗像市 土穴 山本 静子
- 宗像市 星ヶ丘 佐々木和彦
- 宗像市 池田 森 龍子
- 宗像市 若木台 野間 精一
- 宗像市 日の里 秋吉 嘉範
- 宗像市 日の里 石松 弘次
- 宗像市 多禮 早川 祥三
- 宗像市 武丸 白土 凌一
- 宗像市 日の里 花田いつ枝
- 宗像市 日の里 花田いつ枝

編集後記

担当して四年目の菊花大会も無事閉幕しました。「昭和の大造営」の奉祝行事として始まり今年で四十三回を数えますが、出品者の高齢化は顕著で長年中心的な役割を担っていただき、個人的にも大変可愛がっていたいただいた会長・副会長も他界されました。継承することの困難さを肌で感じたほろ苦い大会でした▼広報課の社務も二年目、自ら調べ理解できるようになってきたとは思いますが、来年はより多くの方々に「伝える事」を課題とし、現場により多く足を運んで体験し励んでいきたいと思えます▼今年も残り僅か、慌ただしさが増してきますが、どうか良いお年をお迎え下さい。(鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 〒811-1350 五福岡県宗像市田島三三三
電話 (0940)621-3111(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円

12月祭事暦

| | |
|---|---|
| 1日 月次祭 午前10時 高宮祭 第二宮 第三宮 引き続 宗像護国神社 月命日祭(1日) | 15日 古式祭 午前6時~ 御座 午前6時30分~ 鎮火祭 午前10時~ |
| 午前11時 総社祭 浦安舞奉奏(1日) | 19日 松尾神社祭 午前11時~ |
| | 23日 天長祭 午前11時~ |
| | 31日 年越大祓式 午後3時~ 引き続き除夜祭 |